

もしものときのために「人生会議」



もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組を「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」と呼びます。

誰でも、いつでも、命に係わる大きな病気やケガをする可能性があります。命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。自らが希望する医療やケアを受けるために前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合ってみませんか？

（厚生労働省ホームページより）

Memo

医療機関の役割を知っていますか

医療機関には、病院と診療所があります。病院は、さらに急性期・回復期・慢性期といった治療の経過によって、役割を分担しています。



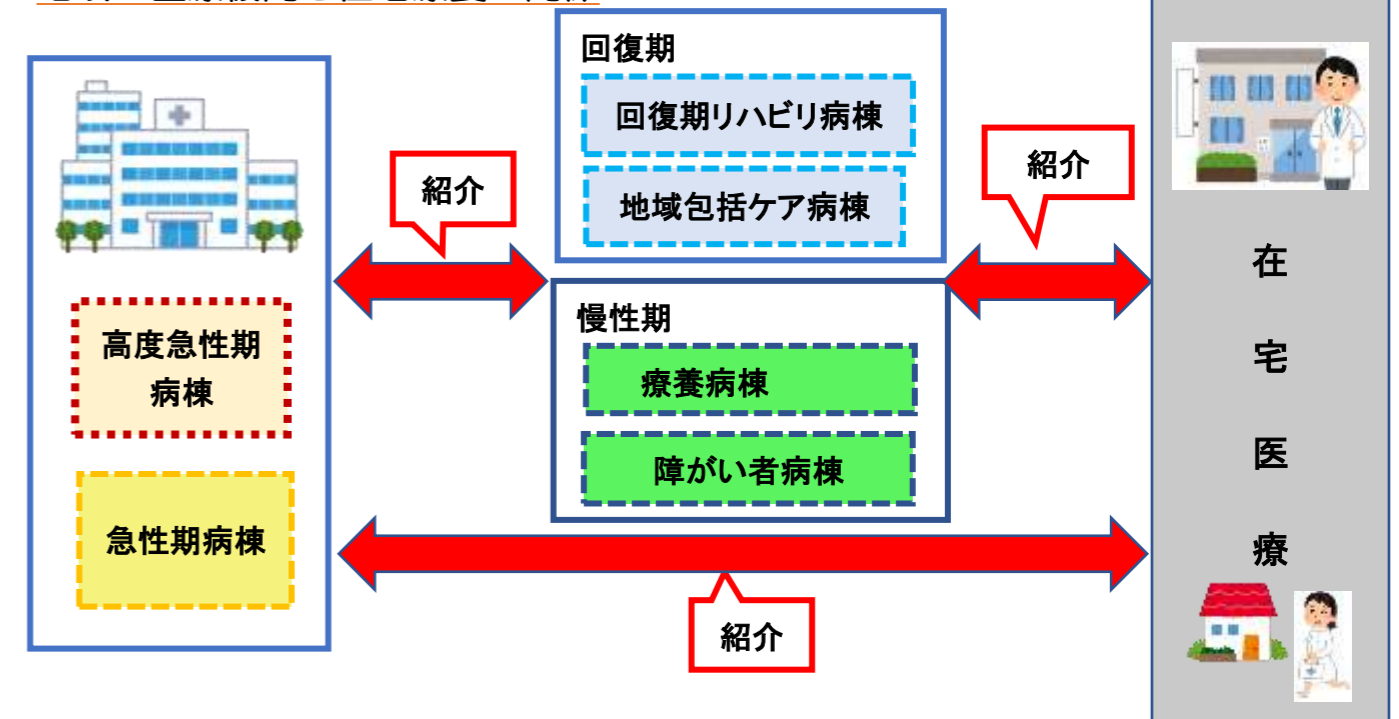
2025年には、団塊の世代が75歳以上になって、日本は、5人に1人が75歳以上になるらしい。年を重ねても安心して医療を受けたいが、最近、前みたいに同じ病院にずっと、入院できないと聞くと、どうなっているのかなあ？

なぜ、病院は、役割分担をするの？ 高齢になると病気にかかりやすくなるし、入院したり、介護も必要になったりして、このままでは病院のベットが不足するんじゃないの？

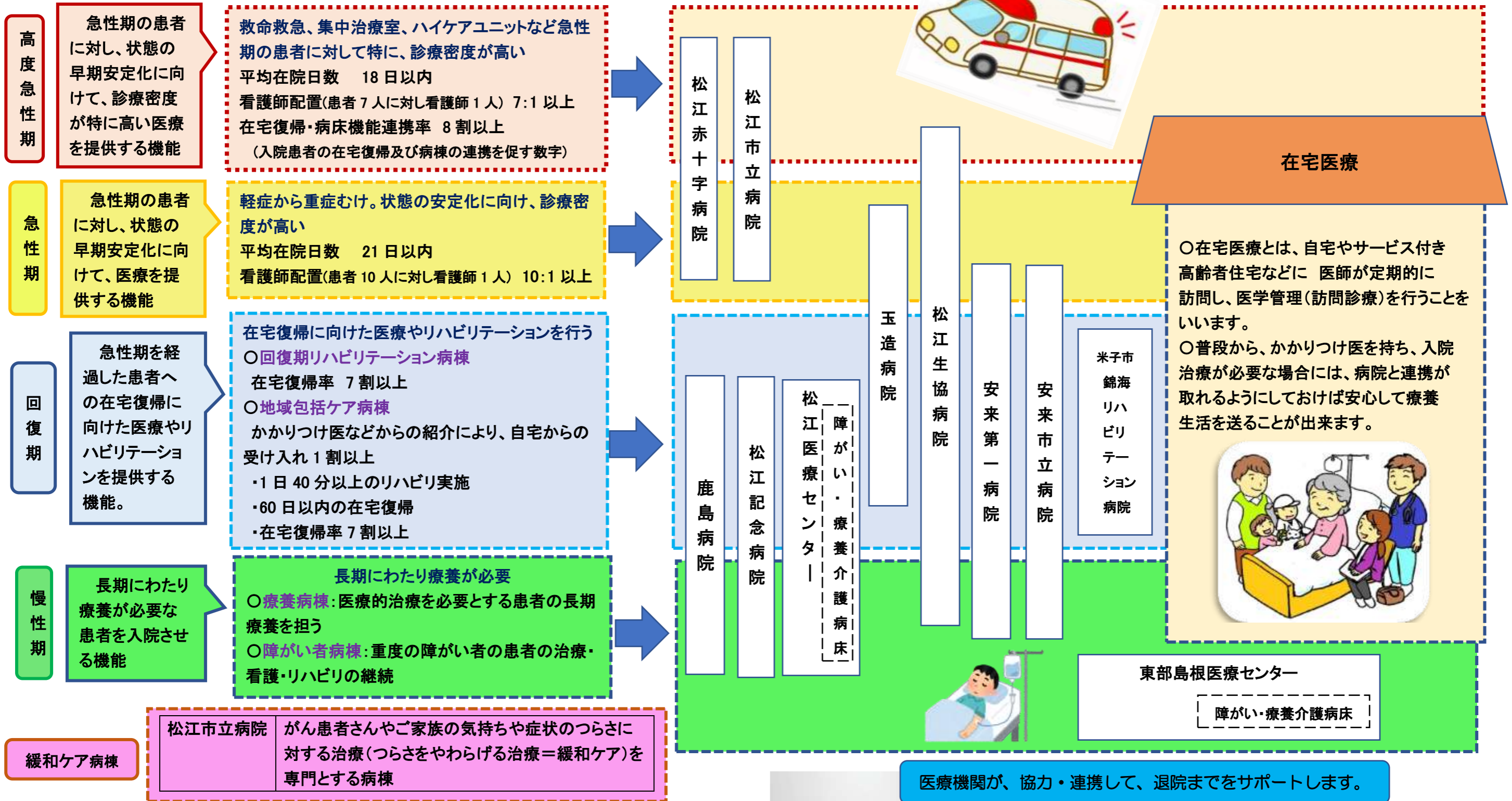


2025年問題に備えて、島根県は、どれくらいの病床が必要になるか推計をし、目指すべき医療の提供体制を「地域医療構想」として再構成し、提案しています。患者さんの状態に応じて、高度急性期、急性期、回復期、慢性期と医療の働きを分類し、入院病床数を振り分けようとするものです。在宅医療も含めた医療機関の関係とその役割をお知らせするためにこのリーフレットを作りました。参考にしてください。

地域の医療機関と在宅療養の関係



医療機能について (令和2年10月現在)



精神科医療機関

病院名	特徴
松江青葉病院	精神科急性期から慢性期まで対応。高次脳機能障害拠点病院。ギャンブル等依存症専門医療機関
こなんホスピタル	アルコール障がい拠点病院。認知症のBPSDの対応
八雲病院	精神科急性期から慢性期まで対応
安来第一病院	急性期から慢性期まで対応、認知症治療病棟あり

医療機関が、協力・連携して、退院までをサポートします。

松江市病病連携推進会議 開催の様子

退院後に住み慣れた地域での生活を支援するために、市内の病院同士や診療所(かかりつけ医)、介護保険施設・事業所、地域包括支援センターなどの多機関が連携しています。市内の急性期病院、回復期・慢性期病院の医療相談員も定期的に集まり、情報交換をしています。